

4. 主体的な活動をもたらす体験の工夫

—「あの子の笑顔に出会いに行こう」を通して—

岩 田 靖

1. 講座の基盤

(1) 講座設定の理由

福祉の中でも障害を持つ幼児への福祉を対象とすることにした。と言うのも、生徒たちが障害を持つ者と出会うのは大半の生徒が小学校に入学してからであり、小学校の取り組みによっては、障害を持つ者への理解や対応には大きな差が見られるのが実状である。中学生になり時間の制約を受ける中で障害を持つ人たちと心からの触れ合いとその人たちのことを自分のこととして考えたり、そこから自分自身を見つめ直すことが期待できるのは、やはり幼児の素直な心（笑顔）や行動に接した時ではないかと考えたからである。

自分たちが幼稚園（保育園）→小学校→中学校とさしたる困難もなく成長してきている中で、障害を持つ子どもたちが自分たちと同じ中学校まで進むのにどれだけの苦難を乗り越えているのか、また一方、健常児との違いは何があるのかを、まだほとんど見たことのない障害を持つ幼児の生活に触れることを通して見つめて行きたいと考えたのである。そして、福祉の実態やそれに関わっている人々の考え（願い）とともに、人間としての生き方に少しでも自分なりの関わりが持てる体験ができたらと願って、この講座を開設したのである。

さらに、単に見学など受け身の学習・体験に終わることなく、自分たちが企画・実行するお楽しみ会などを計画することで主体的に子どもたちと関わり、保母の先生方や親の立場に立つことができると考えたからである。また、こうした障害を持つ幼児たちの生活を見ることは、行政サイドの対応や将来進学するであろう学校や社会の実態・在りように目を向ける大きな動機づけになるものと考えたのである。

(2) 学習活動の工夫

スキルの習得と体験を主眼に置く1年生の総合学習では、各講座に任された時間が少なく、テーマの追求という点においては十分な深まりを持たずることができないのである。また、体験についても、多角的・多面的で、内容的な充実を保障する

ことが難しいというのが正直なところである。そこで、いかに生徒一人ひとりに課題意識を持たせ、主体的に活動させて行くかがポイントになると考えたのである。

そのために、次のような学習活動の工夫を心がけることにしたのである。

- ① 全体での活動と班（クラス）単位での活動、個人での活動を明確にするとともにそれを組織化すること。
- ② 生徒たちに先入観を持たせず、自分たちが体験を通して肌で感じ取ったものを大切にしておくこと。
- ③ 自分たちが、企画し、主体的に運営できるような活動を組み込むこと。
- ④ 自分自身が何か活動し、関わって行けるようなものを用意すること。
- ⑤ 自分とは違う視点から追求できるように関わる対象や視点を複数準備すること。
- ⑥ 体験が総合的に深まって行くように段階的に組織するとともに、夏休みや放課後などの有効利用を行うこと。
- ⑦ 総合学習終了後にも関わりが続けられるように私服での交流にも心がけること。

2. 目 標

障害を持つ幼児の保育の実態調査と松江市心身障害児通園事業「ふじのみ園」での交流を通して、福祉の実態とそのあり方や自分たちのあり方を見つめ直す。

- ① スキルの習得…手紙の書き方や電話のかけ方、インタビューの仕方を知る。
- ② 複眼的視点…障害を持つ幼児への保育（福祉）のあり方や自分たちの関わり方を討議する。
- ③ 福祉の理解…講座での体験や学級発表会、講演を通して、様々な福祉について視野を広げる。
- ④ 共生的視点…保母さんや保護者、行政側へのインタビューや話を聞くことを通して、自分とは違う考え方や見方、視点を知る。
- ⑤ 生き方や活動
 - ・ 子どもたちの喜ぶ活動を考え、実行する。
 - ・ 保母さんや保護者の願いを知り、自らの関

わり方を見つめ直す。

- ・ 障害を持つ子どもたちのけなげで素直な生き方に触れ、自己のあり方・生き方を考え直す。

3. 体験を生かした学習計画

1年生の各講座共通の活動を除いた、講座独自の学習計画は、3回計7時間+課外(夏休み)である。この中で先に挙げた学習活動のポイントを踏まえた主体的な活動をもたらすための体験の場を次のように設けたのである。

〈第6・7時〉 7月14日(金) 5・6校時

- ふじのみ園への体験訪問Ⅰ-子どもたちの活動見学と先生方へのインタビュー

〈夏休み〉

- ふじのみ園への体験訪問Ⅱ-1日保母体験(2クラスずつ2日間実施)
- 松江市内の幼稚園・保育園への障害児保育の実態調査および行政機関へのインタビュー(個人分担)
- 松江市立おもちゃの図書館への体験調査(各自)-幼児や障害児のためのおもちゃ調べ

〈第8・9・10時〉 9月13日(水) 4~6校時

- 夏休みの調査結果の発表会
- ふじのみ園でのお楽しみ会の企画と準備

〈第11・12時〉 9月28日(木) 5・6校時

- ふじのみ園への体験訪問Ⅲ-お楽しみ会
また、総合学習終了後にも関わりが続けられるように、私服での交流の1つとしてふじのみ園のクリスマス会にプレゼントを贈ることを講座以外の人たちにも呼びかけて実施した。

4. 体験を生かした学習の実際

ここでは、ふじのみ園への体験訪問Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実際を紹介することにする。

(1) 体験訪問Ⅰ

「7月14日(金)、初めて『ふじのみ園』を訪問した。子どもたちは、ワーワー泣く子が多く少し弱気になった部分があった。でも、うちとけてくれた時そんなことを忘れていた。

保母さんにインタビューすると驚く答えがたくさんあった。とてもつかれた。」

初めてふじのみ園を訪問した生徒は以上のような感想を記している。皆、障害を持つ幼児たちとどのように接してよいかわからず、子どもたちの素直な反応にただオロオロするばかりであった。

また、先生方の話に耳を傾け、やっとなの様子や子どもたちの実態に興味を覚えたようである。

(2) 体験訪問Ⅱ

夏休み中の1日、2クラスが合同で朝の登園から降園まで間、1日保母見習いとして子どもたちと一緒に過ごすことにした。朝の着替えやプールの準備、トイレの世話、プールでの遊び、昼食の介助、お昼寝、午後の遊びの相手、おやつ、降園の準備、保護者への受け渡しと息つく暇もなく子どもたちの面倒をみたのである。

生徒の中には、次のような日記を残している者もいた。

「7月31日(月)、1日保母さんをした。子どもたちが私のことを覚えていてくれたことには驚いたし、うれしかった。プールの用意・監視が一番つかれた。子どもたちは元気だ。私はつかれた。今にも寝てしまいそうだ。先生の言っておられた『たいへん』が分かった。」

この体験を通して生徒たちは、ふじのみ園の子どもたちと心の会話が少しずつできるようになり、相手が何を求めているのか、どのように対処して行ったらよいかを自分で判断・行動できるようになっていったようである。また、それと同時に障害を持つ子どもたちへの愛情と健常児の子どもたちとの違いがないことに体験的に気づき始めたようである。一方、ふじのみ園の子どもたちにも生徒たちへの安心感が出始めたようで、自分から接触を求めていく子や笑顔の反応を見せることが多くなって行ったのである。

(3) 体験訪問Ⅲ

ふじのみ園への講座としての訪問最後の日、子どもたちへの思い出づくりとその笑顔へのお礼を込めて、生徒の自作自演による「お楽しみ会」を催したのである。

そのプログラムは、次の通りである。

- | |
|-------------------------------------|
| ふじのみ園「お楽しみ会」プログラム 司会 飛田(英)、飛田(侑) |
| 1. はじめの言葉 |
| 2. あいさつ(堀江) |
| 3. 出し物 |
| ・ 1組 紙芝居(自作) 「どうぶつ村のなかまたち」 |
| ・ 3組 音楽と歌 「アニメシリーズ」 |
| ・ 2組 ゲーム 「ボーリングに挑戦」 |
| ・ 4組 人形劇 「小びとのくつ屋さん」 |
| 4. プレゼント渡し |
| ・ 1組 手作りお人形セット |

- 3組 クラス看板と布のくっつく壁掛け
 - 2組 段ボールのお菓子の迷路
 - 4組 クッキーセット
5. あいさつ (坂田)
6. おわりの言葉



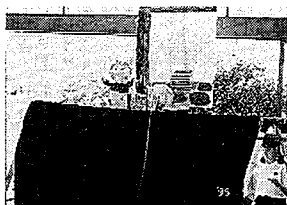
1組 紙芝居



3組 音楽と歌



2組 ゲーム



4組 人形劇

「私たちは、子どもたちがだれでも楽しくなれるようにみんなの好きな音楽にしました。2人の女の子にアンパンマンやセーラー月んの歌を歌ってあげると体を動かして喜んでくれたからです。タンバリン・カスタネット・トライアングルなどでリズムカルにするように工夫しました。一番うれしかったのは、手をたたいて笑ってくれたことです。」など、自分たちの努力と子どもたちの笑顔に対する満足感につつまれた手づくりの「お楽しみ会」になった。

5. 学習の成果と課題

総合学習の中で一番心に残っていることの中で、「ふじのみ園に行って、ちなつちゃんと遊んでいた時、最初は泣いていたけれど、だんだん遊べるようになって、『にこっ』と笑ってくれたこと」というような感想を持っている生徒が多数いた。子どもたちの笑顔に出会うまでには時間がかかり、段階的に3回の訪問体験を計画したことはふじのみ園の子どもたちにとって、生徒たちにとってもたいへん意味のあるものになったように思う。そして、ふじのみ園のイメージを次のように感じ取ったのである。

「みんながやさしくなれる家。強い心、元気な心、明るい心を生み出す園。将来、りっぱな心をもって小さいことからコツコツがんばり、そしてやさしい人を生み出すところ。誰とでも仲良くで

きる子」

また、総合学習の中でたいへんだったこととして次のようなことをあげた生徒もたくさんいた。

「夏休みに、保育所や幼稚園の調査をしたのですが、それがたいへんでした。でも、大人の方と話すよい機会にもなったし、少しですがマナーを知ることができました。」

これとは反対に、「夏休み等、市役所・おもちゃの図書館・普通の幼稚園などに訪問した。とても忙しかっただけれど、それが楽しいという感じだった。」という充実感を感じ取った生徒も多数いたのである。クラスの友だちと活動するのではなく、個人や小数のグループで調査を行うことは、スキルの習得をはじめとして、総合学習への意欲や関心を高めることとなったようである。

また、「行政での障害者に対しての働きかけ」「保母の先生方の一生懸命な姿」「保護者の真剣な思い」など多面的な視点や追求が生徒たちの自分の生き方や福祉をふりかえる動機づけになったものの、資料や発表程度で深い体験に根ざしたもので、生徒たちによる論議を巻き起こす時間がなかったことが、少し残念に思われる。しかしながら、こうした追求の中で生徒たちの「もっと知りたいこと」は、子どもたちの将来の学校や就職のこと、福祉行政の実際、家庭での生活の実態や保護者の願い、他の障害を持つ人たちの生活の様子、他県での幼児の障害者福祉の様子などへと広がっていたのである。さらには、この学習が終了しても子どもや園との関わりを続けたいという意欲と願いが残ったのである。私服での交流の第一歩として、クリスマス会でのプレゼントを計画したのである。



子どもたちとの一時



クリスマスプレゼント

『ふじのみ園』で初めて障害児と話したり、遊んだりしました。初めは（大丈夫かなあ…）と

「いう不安があったけど、実際に体験してみて、普通の子もたちとかかわらないことがわかり、小さな差別をしていた自分がはずかしくなりました」

と言うように、たくさんのことを学びとったと信じています。

- ### 行事予定
- 1 日(水) 避難訓練
 - 7 日(火) 交流保育(ふじのみ園)
 - 8 日(水) 3時降園・職員会
 - 9 日(木) 誕生会
 - 13日(月) 保育参観(きりんぐみ)
 - 16日(木) 保育参観(うさぎぐみ)
 - 17日(金) 交流保育(法吉保育所)
 - 20日(月) 交流保育(ふじのみ園)
 - 21日(火) 身体測定
 - 22日(水) 3時降園・研修会
 - 24日(金) 健診日

- ### おたんじょうび おめでとう!!
- * 杠 美 香 ちゃん 6才
(H1.11.5生まれ)
 - * 桑 米 弥子 ちゃん 4才
(H3.11.27生まれ)
 - * 山田 一 希 くん 3才
(H4.11.3生まれ)

新しいお友達
梅田 のぞみ ちゃん
(H5.7.10生まれ)
仲良くしてね!!

- ### 保育目標
- *うさぎぐみ
 - ・散歩や日光浴を楽しむ。
 - ・自分の好きな遊びを通してやってみようという気持ちを高める。
 - *きりんぐみ
 - ・戸外遊びを通して身体を鍛えたり、友達と関わりを持ちながら遊ぶ。
 - ・健康状態を見ながら、なるべく薄着で過ごす。

- ### おやつ
- 1 日(水) ヨーグルト
 - 2 日(木) きなこマカロニ
 - 6 日(月) くだもの
 - 7 日(火) 小魚
 - 10日(金) 焼きそば
 - 13日(月) くだもの
 - 14日(火) フレンチトースト
 - 15日(水) ポップコーン
 - 16日(木) くだもの
 - 17日(金) ヨーグルト
 - 20日(月) くだもの
 - 21日(火) だんご
 - 24日(金) くだもの
 - 27日(月) サンドウィッチ
 - 28日(火) ゼリー
 - 29日(水) くだもの
 - 30日(木) 卵うどん

島大附属中学校の皆さんからの手紙

—— 小山有理さんから ——

私は強く感じた事がありました。それは“必死で生きてる”という事です。言葉が話せなくても、うまく話せなくても、うまく歩けなくても、みんながんばっています。努力しています。私は障害を持ってないし健康に暮らしているけど、大して努力もしていないけど子ども達は“生きる”という大きな目標を持って努力しながら過ごしている様に思えるのです。そして、たくさんの愛に囲まれて生きている様に思えます。まだ13年間しか生きていない私がこんな大きなことを言っているのかとも思いますが、これは私が自分なりに子ども達と接して分かった事だと思えます。

総合学習の中の“あの子の笑顔に会いに行こう”というテーマを思い出しました。私はふじのみ園で、たくさんの笑顔に出会うことができました。「○○ちゃん」と呼ぶと「はーい」と返事をしてくれたあの子、「楽しい？」と聞くと、ニッコリ笑ってくれたあの子、みんなの笑顔は私の心の宝物です。絶対に忘れません (抜粋)

「11月の園だより」に紹介されたお礼の手紙

(いわた やすし・社会科)